

「北区まちづくりビジョンの改定について」事前聴取意見

*会議開催にあたり、諮問内容に関し、事前に聴取した意見を類似のカテゴリごとに集約しています。

○「戦略①行動のきっかけを作る—「楽しい」ことを新しく始めることで」として集約した意見

No.	意見内容
1	「古墳」や「ふとん太鼓」のような歴史的な資源がある地域にも関わらず、その歴史に詳しくない方や、祭りにもあまり参加しない世帯が増えている。自治会加入問題も含めて、 入口としてライトに祭りに参加できる方法 や単発の歴史を学ぶ講座やイベントがあると良い。
2	自治会役員と区民評議会との懇談会を実施し、 地域活動に楽しく参加できる工夫 等を考える。
3	アンケート結果としては、地域活動への参加率も低く、自治会加入率も低い状況である。 地域活動への参加率向上のためには、参加のきっかけづくりと参加しやすい活動内容 であると考えます。
4	自治会加入率が約 60%で地域活動参加者が約 22%という結果がでていますが、 自治会に加入していない世帯はおそらく地域活動に参加するきっかけも無い と思う。自治会加入を促すのが良いのか、加入促進が進まない場合は、加入せずとも 地域活動参加への呼びかけをする仕組み作り をする必要があるのではないかと。
5	自治会については、費用負担、役割分担、奉仕活動等のイメージがあり、加入も含めて消極的な参加となっているのではないかと。思う。 楽しく、気軽に参加できる地域活動の工夫が必要 だと思う。
6	地域活動に参加していない理由として、「仕事が忙しくて、時間がないから」と回答した人が 46.7%いる。地域活動で参加したいものとして、「健康づくりに関する活動」や「スポーツレクリエーションに関する活動」との回答が合わせて 55.4%あることから、 何かのきっかけづくりをすれば、参加の意向が高まり、実際の参加者も増えるのではないかと 感じた。
7	区役所からの情報に関して 60%の人が関心をもっていると回答しているので、「 きっかけづくり 」になる情報を発信してもらうようにすると良いと思う。

○「戦略②つながる機会を作る—「楽しい」が横に広がり縦に掘り下げる視点を持つこと」
として集約した意見

No.	意見内容
1	<p>「広報さかい北区版」に関しては、情報収集源としている方が多い。北区内の各地域の相互理解につながるものに工夫すると良いのではないかと。発行回数を増やすこと、2、3ヶ月に1度の頻度で各地域のお店・祭り・特産品などを掲載するミニ新聞を製作し、「広報さかい北区版」と同時に配布することも考えられる。ミニ新聞の取材に、成人式の若者実行委員会のような北区内の若者による取材班を組み、区職員と一緒に各地域のお店を取材して記事を作るようにすると面白いのではないかと。若い人に区の良さを知ってもらう良い機会になると思われる。「広報さかい北区版」を北区の魅力にしていける取り組みも必要かと思う。</p>
2	<p>「地域カフェ」や「子育て支援の場」のようなコミュニケーションの場を増やし、多くの出会いを作って絆を深める。</p>
3	<p>区役所も地域の団体もそれぞれができることを頑張っている。それが区民に届かなかったり（問8の回答「情報の発信」問9の回答「情報に関心を持つ」）、区民の生活の多様化による問題（問11と問14の「忙しい」という回答）があると感じる。やはり、多くの人に知ってもらい、浅く関わってもらうこと、その頻度を上げていくことから次の活動の担い手や新たなアイデアが生まれるのではないかとと思う。</p>
4	<p>区役所の役割としては、リードしていける人材の確保、研修などの場所の提供、地域は世代間の役割を意識した活動ができれば良いと思う。例えば、岸和田のだんじり祭りでは、世代ごとにだんじりの中で様々な役割を担っている。子どもは、青年団の活躍へのあこがれを抱けるようになってきている。青年団は自分たちが祭りを支えているという自負心を抱けるようになってきている。壮年は全体を支え、企画運営、予算の確保を担うようになってきている。老年は、だんじりを引くことは非常に危険なため、子どもを守る役割を担っている。このようなプログラムを考えることができればと思う。</p>

○「戦略③つながりを継続させる仲間を作る―「楽しい」で協同の意識を醸成することで」として意見集約した意見

No.	意見内容
1	自治を担う「人」が育つことが大切であると思う。この「人」とは、「自分だけ」の幸せを大切にす る狭い共同意識ではなく、 みんながより良く生きていくための共同関係を大切に する「人」 で、感性・想像力・行動力を発揮する存在を育てることが大切だと思 う。
2	昭和47年から、青少年活動・地域活動に関わっており、当時は大阪万博の影響もあり、これから発展する 雰囲気だった。海外旅行を企画するなど、地域活動は目に見える形 のものを企画しやすく、民間も行政も活動が活発だった。現在は、社会が豊か になり、色々な物や遊びの機会がたくさんある。民間や行政は、目に見える形でのサー ビスの提供がしづらい時代となっている。これからは 心の充足感が得られる活動が必 要 という話も聞いている。
3	今住んでいる地域（現状は小学校区エリア）で助け合える ことが生活の基本となり、 人間として安定した生活感や心の充足感が得られるコミュニティとなるべきだと思 う。